

昭和56年度技術改良試験報告

専技 久 貝 一 成

1. 課 題 名

トビイカ釣の省力機器導入試験

2. 要 約

- ① 漁船（2～3トン）とその装備（集魚灯及び作業灯60W100V1～2個）により操業可能かを試験した。
- ② シングルの小型自動釣機（電源DC24V）で擬餌針の改良を併せて実施した。
- ③ 与那原町漁協、久米島漁協所属船でそれぞれの沖合でのべ25日間試験した。
- ④ 一般にスルメイカにはベークライト擬餌針、ソフトビニール擬餌針が使用されているが、この試験では青色、橙色、桃色系のイカ型（1部イワシ型）のソフトビニール擬餌針8タイプを2段と3段針を製作して試験した。
- ⑤ 水深5m以深にイカ群がいるときに釣獲率は高いが友餌つきひっかけ漁法と比較すると全体的にひっかけ漁法が非常に高い。
- ⑥ 2段針より3段針が良く濃桃色は他と比較して悪かった。

3. 目 的

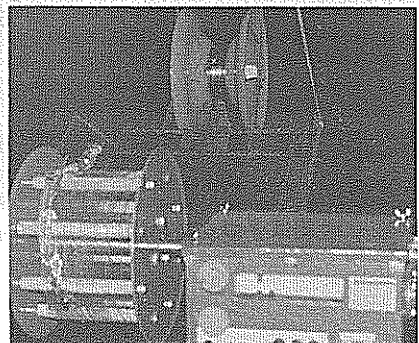
本県のトビイカ漁業は毎年7月～10～11月沿岸回遊して来る。操業船は200隻にのほり沖縄本島南部東側の漁船と久米島の漁船がほとんどで、宮古・八重山では数隻程度である。漁船はクリ舟から3トン未満で漁法は隻魚灯及び作業灯用としてクリ舟は灯油ランプを、和船ではバッテリー電源で60W100Vの白熱電球1～2個つけてのひっかけ漁法である。マグロ針にトビイカをかけて投げ友餌とし、トビイカが喰いついたらたぐり寄せ、竿先につけたひっかけ用イカ針でひっかけ漁獲する。

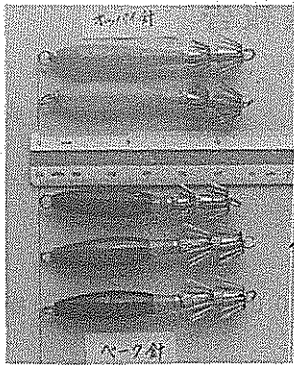
トビイカの漁獲量は約400トンで再生産可能推定資源量4,000トンの $\frac{1}{10}$ の水揚げである。かかる現状から未利用資源の有効利用とあいまって、小型魚船への自動釣機の導入と普及により省力と生産増を図る必要がある。

4. 材料及び方法

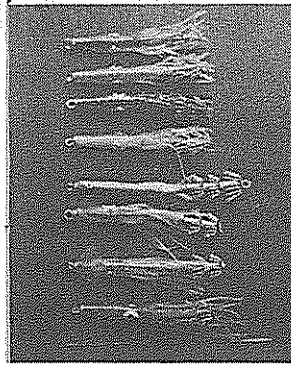
(1) 材 料

- a. DC24V用シングル小型自動イカ釣機（自重約30kg）1台
- b. イカ型擬餌針7タイプ、イワシ型1タイプ各2～3段針

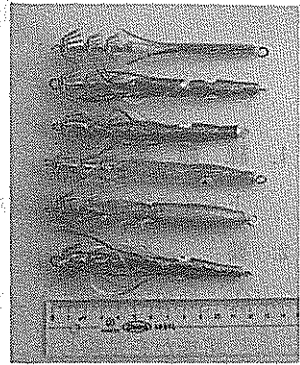




従来型針



改良イカ型及びイワシ型針



(2) 操業の方法

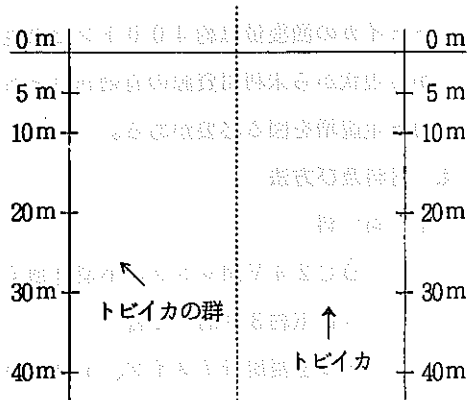
1隻1人乗りの約3トンの漁船の左舷船尾側に釣り機をとりつけ、笠付の電灯(60W100V)1個を船尾中央部に配して集魚灯及び作業用灯とした。午後5時頃出港し、港川南約10哩沖合でライフアンカーを船首から投下して船を安定させ、午後7時30分から翌日午前3時30分まで操業した。久米島では真泊港約1哩沖合で水深250mのところアンカーを入れて停泊し、午後7時から10時まで操業した。擬餌針はテグス16号を使って80cm間隔で25個連結し、幹繩に25号テグスを使い魚深反応をみながら水深40mからシャクリを入れて作動させ操業を続けた。

5. 結果

- ① 魚探反応は小単群(数尾~20数尾程)であった。
- ② 切腕脱落は殆んどみられなかった。
- ③ ひっかけ漁法と比較して体重は5~40%小さい。
- ④ 同一船で自動釣り機とひっかけ漁法が釣獲比率は1:0.1~6.2であった。2船比較では1:2~6となりいずれもひっかけ漁法が釣獲率が高い。



大箱は手づり、小箱は機械釣の成果



(港川沖7月27日02時) (久米島真泊地先 11月29日PM8時)

魚探記録

6. 考 察

電源DC24Vによるシングル小型自動釣機の試験は県水産試験場で実施されているが、当業船でははじめてであるが手づり(友餌によるひっかけ漁法)の $\frac{1}{2} \sim \frac{1}{6}$ の結果であった。しかし、現在の船の船型、装備状況からこの機種の小型軽量化と併せて機能アップのための改良を図ってゆくのは勿論であるが、AC3相220Vのダブル機を使って水試で試験した結果では当業船に(ひっかけ漁法)並あるいはこれ以上の漁獲成果が得られているので今後トビイカ漁業の本格的省力化を図る上では、これらを勘案し船の規模に応じて装備の改善と併せてAC電源のダブル機の導入により省力化と生産増を図るべきである。また加工技術の改善と流通対策を強力にすすめることによって魚価定安と生産増への対応が図られる。

トビイカ漁業の省力化と生産増を図るためには、まず船の規模に応じて装備の改善を図る必要がある。現在の船の規模は、概して10トン前後の小規模船であるが、これに比べて大型船の導入により生産性を向上させることが期待される。また、加工技術の改善と流通対策を強力にすすめることによって魚価定安と生産増への対応が図られる。

トビイカ漁業の省力化と生産増を図るためには、まず船の規模に応じて装備の改善を図る必要がある。現在の船の規模は、概して10トン前後の小規模船であるが、これに比べて大型船の導入により生産性を向上させることが期待される。また、加工技術の改善と流通対策を強力にすすめることによって魚価定安と生産増への対応が図られる。

トビイカ漁業の省力化と生産増を図るためには、まず船の規模に応じて装備の改善を図る必要がある。現在の船の規模は、概して10トン前後の小規模船であるが、これに比べて大型船の導入により生産性を向上させることが期待される。また、加工技術の改善と流通対策を強力にすすめることによって魚価定安と生産増への対応が図られる。

トビイカ漁業の省力化と生産増を図るためには、まず船の規模に応じて装備の改善を図る必要がある。現在の船の規模は、概して10トン前後の小規模船であるが、これに比べて大型船の導入により生産性を向上させることが期待される。また、加工技術の改善と流通対策を強力にすすめることによって魚価定安と生産増への対応が図られる。